

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

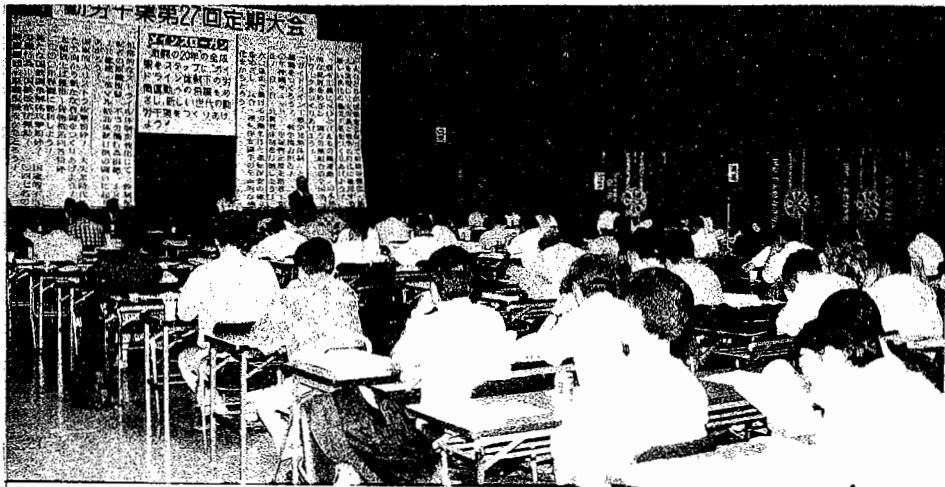
国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043(222)7207 番

99.10.4 No.5026

## 「ガイドライン体制下の労働運動」への飛躍を

### — 動労千葉第27回定期大会開催 (10/3~千葉市) —



一〇月三日、午前一〇時より千葉県労働者福祉センターに於いて、第二七回定期大会が開催され、動労千葉結成二〇周年の闘いの総括と方針が提起された。大会は、議長団に千葉運転区支部小倉代議員と木更津支部赤羽根代議員が選出され、議事が進められた。まず中野委員長があいさつに立ち別掲のように二〇周年の闘いの総括を行なった。続いて来賓の、三里塚反対同盟の北原鉦治事務局、関実の安藤眞一事務局長、栗田忠宏労福協会長、次回の衆議院選挙出馬の決意をこめて長谷川英憲都政を革新する代表、葉山岳夫顧問弁護団長、動労水戸辻川慎一書

記長、佐藤正子家族会会長、白石喜久雄〇Ｂ会副会長、千葉県労働金庫本店営業部大竹菊司氏三一書房労組三角忠委員長よりそれぞれあいさつを受けた。その後、メッセージが紹介された。

ここで昼食を挟んで、動労千葉議員団より、二期目当選の水野正美勝浦市議会議員、そして今回、動労千葉の総力を挙げて二期目の御宿町議選を見事四位で当選した中村俊六郎町議会議員、五選を果たした中江昌夫船橋市議会議員よりあいさつを受

### 大失業時代にたち向かう労働運動を

#### 中野委員長あいさつ(要旨)

本大会は、4月の船橋・勝浦選挙戦の勝利、9月の御宿選挙4位当選の勝利の余韻をもって20周年にふさわしい堂々たる大会として開催された。

今大会ではまず、時代認識について一致させたい。第一四五回通常国会は反動法案を次々と通した歴史に残る国会となった。その最たるものがガイドライン関連法だ。いわば戦争法、治安弾圧法、大企業救済法、労働者権利剥脱・首切り法だ。日本はこれをもって戦争をしない国から戦争をする国になった。

小沢政権は戦後日本のあり方を「自立・競争」に転換し、「力なき者は死ぬ」とする一方、大企業、大銀行には膨大な金を投入する。階級社会そのものだ。景気回復は、根本原因に過剰資本・過剰生産力という問題が

けた。

続いて執行部より一般経過報告、労働協約・協定締結報告、事業部報告、法対報告、決算報告、会計監査報告の後、経過についての質疑討論が行なわれた。

議運より大会延期承認のあと、九八年度決算承認、労働協約・協定承認を受け、田中書記長から九九年度運動方針案が提起。会館運営委員会答申を君塚正治氏が行なった。続いて、九九年度予算案が提起された。ここで動労千葉争議団より「場所は違っても皆と気持ちは同

じ。ともに頑張る」という決意表明が行なわれた。

今年組合表彰として、西森巖特別執行委員に表彰状が送られた。ここで第一日目の議事は終了し、交流会へと続いた。



ある以上、解決できない。産業再生法は、企業がリストラ計画を政府に提出するというものだ。銀行の大型合併が行われた。これからは大規模な合併・膨大な労働者の首切り・合理化が必至だ。そういう時代にわれわれは直面している。これと対決できる労働運動でなくてはならない。本大会の最大の課題は、「ガイドライン体制下の労働運動」をどのようにつくっていくかという点だ。ガイドライン体制下、つまり戦争下で、闘う労働組合の存在を認めるはずがない。労働組合を戦前の産業報国会のような存在にしていこうとしている。事実、5・28判決や関西生コンへの攻撃にみられるように解体攻撃は始まっている。これから労働者の闘いをどのように構築すべきかという点だ。

二つめには、国鉄闘争の勝利をかちとることだ。国鉄闘争をめぐる攻防は、情勢を正しく認識して闘うことにかかっている。昨年の5・28判決は労働委員会の命令を東京地裁がひっくり返したところに特徴がある。労働組合法を否定する大きな転換点となった。国鉄闘争を叩きつぶそうとしている。こうした敵の方針を見極め、初心に返って闘うことがいちばん重要である。またJR内での力関係を逆転させ、平成採を獲得していこう。第三には、結成20周年の事業として、新会館の建設に着手したい。労働組合の資産をどのように維持していくかという問題でもある。会館運営委員会の答申をもとに検討していきたい。当面する闘いとしては、有事の際に最大の米軍基地となる成田空港の暫定滑走路建設に反対し、10・10三里塚に結集しよう。三組合よびかけの11・7労働者集會に全力で結集していこう。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう!